

治療抵抗性統合失調症の新規治療法の確立

The new approach for treatment-resistant schizophrenia

平成22年度 島根大学研究功労賞

研究者紹介

研究代表者：宮岡 剛 (医学部・准教授)
 研究協力者：堀口 淳 (医学部・教授), 稲垣 卓司 (教育学部・教授), 和氣 玲 (医学部・医員)
 川上 一公 (医学部・大学院生), 古屋 智英 (医学部・大学院生)
 家田 麻紗 (医学部・大学院生), リアウリ・クリスチアン (医学部・大学院生)

Leader : Tsuyoshi Miyaoka (Associate Professor, Faculty of Medicine)
 Cooperator : Jun Horiguchi (Professor, Faculty of Medicine)
 Takuji Inagaki (Professor, Faculty of Education), Rei Wake (Researcher, Faculty of Medicine)
 Kazunori Kawakami (Graduate Student, Faculty of Medicine)
 Tomonori Furuya (Graduate Student, Faculty of Medicine)
 Masa Ieda (Graduate Student, Faculty of Medicine)
 Liaury Kristian (Graduate Student, Faculty of Medicine)

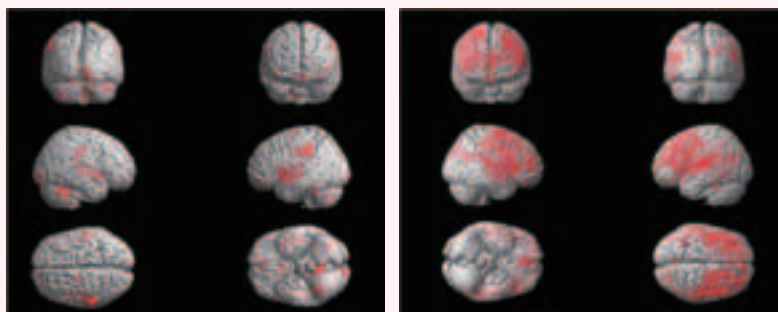
概要

統合失調症は精神の病気の中でも最も主要な病気の一つです。これまでのところ統合失調症の治療は薬による治療が多くなされています。しかし、薬の副作用による体への影響が強いなどの理由で治療に必要な量まで薬を増やすことが難しい場合や数種類の薬を服用しても病状がよくなる場合などがあります。このような状態を「治療抵抗性」といい、全体の約20~25%程度の患者さんにみられます。我々はこの「治療抵抗性統合失調症」の特徴やその原因を探り、有効な新しい治療法の確立を目標に研究を行っています。

Schizophrenia is a chronic, severe, and disabling brain disorder that has affected people throughout the history. About 1 percent of Japanese people have this illness. The treatment of schizophrenia-patients who do not make minimal or any response to adequate doses of antipsychotics imposes an enormous challenge to clinicians. These antipsychotic treatment-resistant patients constitute up to 20-25% of all patients with schizophrenia. The aim of our research is establishment of treatments for treatment-resistant schizophrenia.

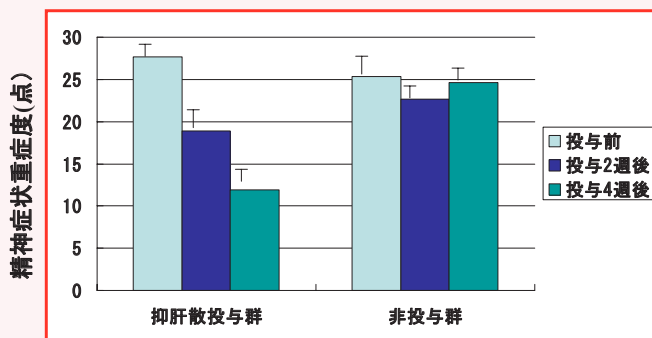
特色 研究成果 今後の展望

○治療抵抗性統合失調症の脳血流画像の特徴が明らかになった！



治療効果が高い統合失調症(左)と治療抵抗性統合失調症(右)の脳血流低下部位を赤色で示しています。治療抵抗性統合失調症では脳血流低下部位が広範であり、その程度も強いことが明確にわかります。

○治療抵抗性統合失調症に対して漢方薬が有効である！



抑肝散という漢方薬を追加投与することで、投与4週後で精神症状の重症度の著明な改善を認めました。統合失調症の治療における漢方薬の有効性を示した世界初の研究成果です。現在、厚生労働省から研究補助金を頂き、多施設共同二重盲検ランダム化比較試験(二重盲検ランダム化試験とは客観性を厳密に追及した試験でプラセボ効果や、観察者の偏見や先入観を防ぐ試験方法です。)を実施しています。